総合教育センターだより

124号　平成30年9月発行　山梨県総合教育センター

「夏期研修会を終えて
～猛暑の中，本当にありがとうございました～」

今年の夏は全国的に猛暑が続き，8月23日には埼玉県熊谷市で観測史上日本歴代最高気温となる41.1度を記録，山梨県でも7月23日に甲府で40.3度を記録しました。7月・8月の甲府の平均気温は28.3度と過去最高となったそうです。本当に今年の夏は暑かったですね。

うだるようなこの異常な暑さの中，インターネット上では，40年前の東京の気温と現代の気温を比べたつぶやきに注目が集まりました。発端となったのは，あるTwitterユーザーの「60歳の人から『オレらの時代は，エアコンなしで受験勉強したものだ！それに比べて今の若いモンは！』と言われ，40年前の東京の気温を調べたところ，こんなにも快適だったのかと驚いた！」というつぶやき。実際に調べてみたところ，40年前の東京の8月の平均気温は，26.6度，今年の平均気温は28.1度でした。やはり，昔は涼しかったようです。そういえば，昔は，夏休みに入る前に担任の先生が「朝の涼しいうちに宿題（学習）を済ませましょう」とおっしゃっていました。今と違って朝夕は，涼しかったんだなぁと思い出します。

本センターは「学校教育を支援する確かな情報発信源としての総合教育センター」の基本方針の下，「やまなし教員等育成指標」に基づき「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け，先生方が自らの資質能力の向上を図る一助となるための研修会を企画・運営しています。

この夏も7月23日（月）から8月20日（月）までの約1ケ月間，「夏期研修会」を開催しました。この間，研修会129本，参加人数延べ5,690人と多くの先生方に御参加いただきました。皆様の御理解・御協力のおかげをもって，今年度も「夏期研修会」を無事終えることができました。猛暑の中，本当にありがとうございました。

初任者研修会

宿泊研修（1日目）野外炊事の様子

宿泊研修（1日目）情報交換会の様子

宿泊研修（2日目）自然観察の様子

学校教育相談研修の様子

道徳研修・授業づくりの様子

「ソーシャルスキルトレーニング研修会」

本研修会は，第2ステージとなる専門性充実期を迎える教員を対象として，ソーシャルスキル教育の理解を深め，指導力の向上を図ることを目的に実施しました。受講希望者も定員を2倍近く上回り，学校現場でのニーズの高さがうかがえました。講師の星雄一郎先生（國學院大學栃木短期大学）の軽快な語りと受講者の期待に応える内容により，会場全体が活気に満ちていました。前半は，児童・生徒の問題行動やつまずきの原因をスキル不足ととらえ，必要なスキルを積極的に学習させながら適切な行動を増やしていくソーシャルスキルトレーニング（以下SST）の考え方や理論を，後半は学校現場で使えるSSTを体験的なワークを通して学びました。受講者からは「ポジティブな指導が増え，生徒との関係や雰囲気が今以上に改善すると思う」「行動に着目して目標を立て具体的に指導していくというSSTの視点は，指導改善の大きなヒントになる」といった前向きな感想や，本研修を２学期以降の指導に生かしていこうとする声が多く寄せられました。

「小　経験3年目教員　理科指導力アップ研修会」

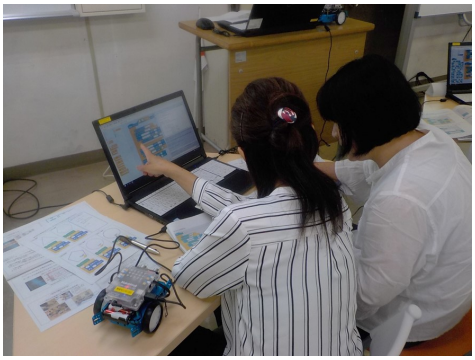
～小学校理科教育の課題に即した　明日の授業に生きる実践的な２日間～

理科の授業に自信が持てない。理科の授業中にヒヤッとした経験がある。これは小学校採用3年目の先生方から，数多く聞く声です。でも，充実した理科の授業を行いたい。これは全ての先生方の願いです。

このギャップを埋めるため，物理・化学・生物・地学それぞれの領域について，多様な立場と経験をお持ちの先生方に講師となっていただき，理論だけでなく，すぐに役立つ観察や実験の演習を取り入れた講義を行っていただきました。

明日の授業の準備，授業改善や研究活動への取組，深い造詣と授業実践力，観察の工夫など，各講師の得意とする視点から情熱あふれる研修が行われ，受講したほとんどの先生方から，明日の授業に生きる充実した研修であったと高い評価をいただきました。

「小　主体的・対話的に学ぶプログラミング基礎研修会」



小学校の先生方を対象に新学習指導要領で必修となるプログラミング教育について，アクティブ・ラーニング用の台形型の机が整備された研修室を使用し，より対話しやすい環境の中，協働的な作業を通し，プログラミングの楽しさを体験しながら学ぶことを目指し，実施しました。

内容は，『スクラッチ』を使って画面上での動きを実現させたり，正多角形を書かせるプログラム作りをしたり，ロボットのセンサーを使って動きを制御したりするプログラム作りを行いました。

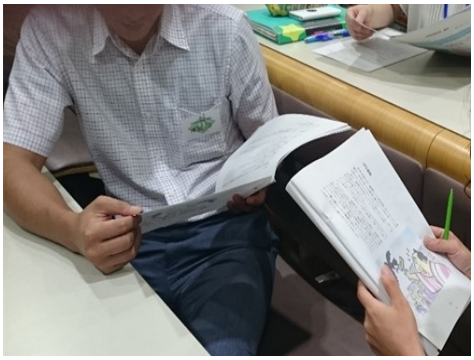
受講された先生方から「楽しく引きこまれ，あっという間に時間が過ぎていきました。資料も充実していて，参加して本当に良かったと思いました。また，二人一組という形式も心強く，子どもたちの気持ちもわかりました」といった感想をいただきました。

より良い研修会となるよう，今後も工夫を重ねていきたいと思います。

「体験で学ぶ火山研修会（富士山科学研究所共催）」

「山の日」直前の8月8・9日に開催しました。初日は富士山科学研究所で国内一流の火山学研究者による「富士山を火山として分析する」講義と，噴火の仕組みとマグマ流実験，岩石分析と討議。2日目はバスを貸切り，富士スバルライン御庭から樹海付近を散策し、初日の講義内容を専門家の詳しいガイド付きで観察できる充実した研修でした。参加者からは「研究所の専門家の方々が工夫を凝らしてくれて，教室でも用意でき楽しめる実験手法を教えてもらえた」「いろいろな岩石の魅力に引きこまれた」「防災や理科の指導法について理解が深まった」などの感想をいただきました。火山学から小中学校理科や地学分野，防災学，樹海や風穴探検まで，多様な視点から富士山を堪能しつつ科学できます。今後もぜひ多くの教育関係者に体験してほしい研修です。

「中堅研必修２－２　道徳性とその涵養について学ぶ研修会Ⅱ」



平成29年4月1日施行の「教育公務員特例法等の一部を改正する法律」の規定に基づき，「中堅教諭等資質向上研修」の実施期間は複数年（5年以内）に受講する制度に変更されました。今年度はその1年目で，約230人が必修1－1から必修8－1までの各講座を受講しています。必修研修の内容は，学習指導，生徒指導，キャリア教育，特別支援教育，学校運営，新たな教育課題等，中堅教員としての資質・能力の向上に必要な事項となっています。本研修はその選択講座の一つであり，本県における道徳教育推進の第一人者である南アルプス市立櫛形中学校教頭　田中一弘先生を講師に招き，小・中・高・特の約100人の先生方を対象に，道徳性とその涵養方法についての御講義をいただきました。今年度から道徳の教科化が始まり，答えが一つではない道徳的課題について一人一人の児童生徒が自分自身の問題として捉え向き合う「考える道徳」「議論する道徳」への転換について，受講した先生方はグループでの話し合いを交えながら熱心に学んでいました。

「小　算数科授業づくり研修会」・「小　算数科授業力アップ研修会」

～算数科で求められる資質・能力について学ぶ２つの研修～

「小　算数科授業づくり研修会」

「小　算数科授業力アップ研修会」

「小　算数科授業づくり研修会」では，講師の清水宏幸先生（山梨大学准教授）と評価問題作成について学びました。一昨年度「数と計算」領域，昨年度「量と測定」領域に続き，本年度は「図形」領域の評価問題作成にチャレンジしました。多くの先生方が，「実際に問題を作る活動を通して，どのような力を児童に付けさせたいか考えさせられた」と感想を述べていました。また，「2学期から単元末の評価問題作りを実践したい」「校内研究で問題作成の演習をしたい」といった声も寄せられました。

「小　算数科授業力アップ研修会」では，講師の清野辰彦先生（東京学芸大学准教授）と統計的問題解決について学びました。フリーソフトGeoGebraを用いてデータを処理し，PPDACサイクルと照らし合わせながら，問題解決する過程を体験しました。先生方から，「統計的な内容の充実について知るよい機会となった」「目的に応じてグラフや代表値を選択する力が必要であることを学んだ」といった声が寄せられました。また，日常生活を題材にした実践に感銘を受けた感想が多く寄せられました。

夏期研修会の様子

考古博物館研修

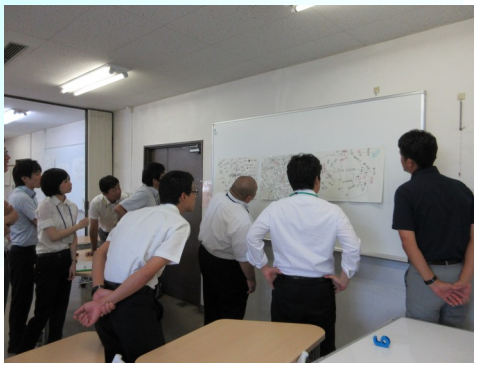
高 家庭科衣食授業力アップ

外国語異校種間連携研修会
（文科省 直山 木綿子先生）

中高 体育実技指導力アップ研修会

高 国語科授業改善研修会

高 地歴・公民科授業力アップ研修会【基礎】



「特別研修会Ⅰ」を終えて　　調査研究課

『新学習指導要領がめざすもの
―「資質・能力」の育成，授業改善，カリキュラムマネジメント―』

横浜国立大学名誉教授の髙木展郎先生をお招きし，新学習指導要領の全面実施に向けて各校が何をしなければいけないのかを学びました。約300名の参加者は，100枚以上のスライド資料とノンストップで130分間熱く語る髙木先生に圧倒されました。

「学校だけの文化」では通用しない時代を生きる子どもたちに対し，明治以来の学びを「能動的な学び」に変える「教育改革」を行うために，教師の役割がどう転換したのかから話が始まりました。集団の中で序列をつけるのではなく，一人一人を支援することが大切なので，「トーク・チョーク・ワークシート」に頼らないこと，さらに，一教師の力量で対応できるものではないので「学校として学力の質を保証」するために「チーム学校」の考え方が欠かせないこと，教師はまず学習指導要領を読み，各自の実践との整合性を自分で確かめるべきこと，「学校の主語が子ども」になるよう，支援的風土のある学級集団づくりを行うこと，考えさせる問い（どうする？どうして？なぜ？わけは？だから？どうしたい？どういうこと？）を発し，やがて子どもたちが自分で自分に問い直せるように育てていくことなど，多くの御示唆をいただきました。

「特別講演会Ⅱ（兼　総合教育センター創立７０周年記念講演会）」

日時：平成３１年2月２１日（木）１３：３５～１５：０５

講師：山梨県立博物館館長　筑波大学名誉教授　守屋正彦氏

演題：「甲斐の伝統や文化に関する教育への誘い」

守屋正彦館長より講演に先立ちメッセージをいただきました。

「山梨は文化不毛の地と言う人がいる。どのような根拠で言うのであろうか。素晴らしい歴史・文化資源も多く，優れた逸材が活躍している。その一例として夢窓国師とその弟子たちを取り上げ，彼らが京都の大きな禅宗寺院を築いた背景を追う。甲斐から中央の文化が生まれたのである。」

一般留学生の声

一般留学生としての生活がスタートして5か月が経ちました。センターの先生方の御指導の中，様々な視点からのアドバイスをいただき研究を進めています。

現在は，中学校でのCAN-DOリスト活用について研究をしています。CAN-DOリストの開発から，活用の為の足場がけ，評価の方法と，やらなければならないことは山積していますが，充実した日々を送っています。じっくりと腰を据えて研究に取り組めるこの機会に感謝し，これからも頑張っていきたいと思います。

伊藤竜弥（明見中）

現代の教育課題のひとつである，情報教育に取り組んでみたい。このような思いが，私がセンター一般留学生に志願したきっかけでした。

機器活用，情報リテラシー，プログラミング的思考の育成，情報教育に求められる多様な観点に基づき研究を進めています。現在は，プログラミング的教育で論理的思考を育み，それを活用してリズムダンスを創作するという実践に取り組んでいます。新たな時代に求められる教育を推進すべく，励んでいきたいと思います。

畠山忠（八幡小）

YAMANASHI PREFECTURAL EDUCATION CENTER

編集発行　山梨県総合教育センター
山梨県笛吹市御坂町成田１４５６
電話　０５５－２６２－５５７１
Fax　０５５－２６２－５５７２
発行責任者　所長　斉木　邦彦
発行日　平成30年9月28日